

同じ仲間なのになぜ違う形？

－多様な形が生まれた理由を探ろう－

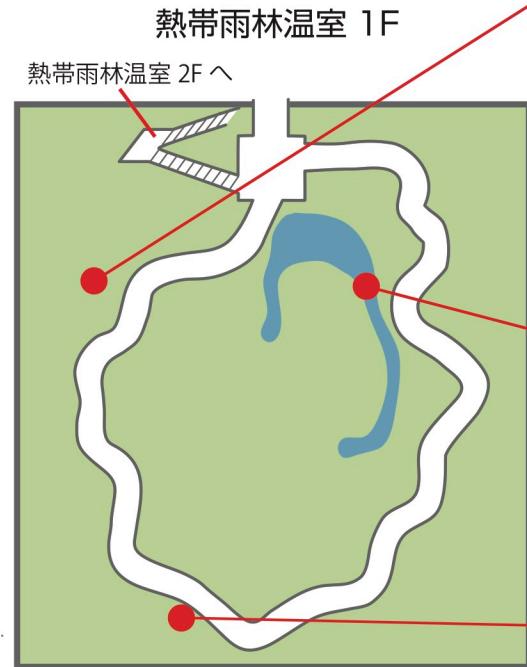
サトイモ科

樹上～陸上～水面～水中という垂直移動がすごい。
世界最大の花から世界最小の花まで、大きさの違いも見ものです。

課題1 園内のサトイモ科植物をよく観察して、共通する形を考えて裏面の解答欄に記入しよう。

このシートの両側にある点線で谷折りすると、解答欄が便利に使えます。

課題2 サトイモ科を見つけたら に ✓ しましょう。



ショクダイオオコンニャク *Amorphophallus titanum*

多くの期間は葉だけを出して地中のイモを太らせ、数年に一度だけ巨大な花序を咲かせます。巨大な花序と強烈な臭いは、一度にたくさんの昆虫をおびき寄せ、見通しの悪い熱帯雨林の中で確実に種子を付ける戦略と考えられます。(※これは1つの仮説です。環境との様々なせめぎ合いの中で、巨大な花が進化したと考えられます。)

生育：1年中(11月末～5月は地下のイモのみ)

開花：不定期(数年に1回)



クリプトコリネ *Cryptocoryne*

季節や天候によって水位が激しく変動する環境に生育します。多少の水位の上下があっても、花序の先端を水上に出すことで、ハエなどの昆虫が水に濡れることなく花にたどり着くことができます。

生育：1年中

開花：不定期



ラフィドフォラ *Raphidophora cryptantha*

熱帯雨林の林床は植物が密生していて光があまり届きません。ラフィドフォラ・クリプタンタは、葉が吸盤の役割をして木に着生し、光の豊富な樹上への進出を可能にしました。

写真左) *Raphidophora cryptantha*

写真右) *Raphidophora glauca* の花

生育：1年中

開花：不定期(※筑波実験植物園では開花したことありません)



ティフォノドルム *Typhonodorum lindleyanum*

幹のように見える茶色い部分は、葉の柄が何枚も重なったものです。その組織には空隙がたくさんあるためとても軽くできています。この軽量の体が浮力を生むことで、柔らかく不安定な湿地でも大きな体を水上に自立させることができます。

生育：1年中

開花：不定期(1年に数回)

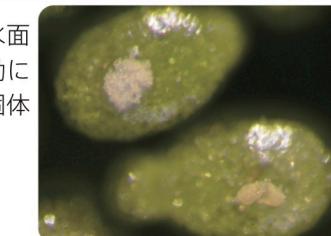


ミジンコウキクサ *Wolffia globosa*

葉と茎が融合した楕円形の体(葉状体)だけからなり、水面に浮かんで生活します。水面に浮かぶことで、水位の変動に柔軟に対応できます。(しかし陸上植物で最小の超小型個体にどのような意味があるのかはわかっていません。)

生育：1年中

開花：7～8月



サトイモ科に共通する形はこれだ！ 絵や文字で記入しよう。

アンスリウム Anthurium

色鮮やかで花びらのように見えるのは仏炎苞という葉が変形したものです。中央にのびる軸に小さな花が多数つきます。色鮮やかな仏炎苞は、熱帯雨林の森の中で送粉昆虫に花をアピールするのに役立っていると考えられます。色鮮やかで美しいことから、観賞用や切り花用に広く栽培されます。

生育：1年中
開花：ほぼ1年中

